

発刊に当たって

平成22年2月に内閣府が行った調査結果から、全国のひきこもりの子ども・若者は約70万人に上ること、30歳代で長期にわたってひきこもっているケースが数多く見られることなど、遷延化するひきこもりの実態が明らかになりました。

当事者やその家族は、現在の生活のことのほか、親が亡くなったあとのことなど、様々な不安を抱えていると言われています。

本書は、こうした様々な不安を抱えている当事者やその家族を支援している民間支援団体・地方公共団体の相談機関の皆さん、当事者やその家族、あるいはひきこもり問題に関心をお持ちの一般の方向けに、研究者や実務家として本問題の第一線で活躍する方々が、ひきこもりの精神心理や利用可能な制度・機関、将来に向けた備えなどについて執筆したものです。

本書を通じて、支援者側のひきこもり問題に関する相談能力が強化され、当事者やその家族の不安が解消に向かい、さらには、本問題への正しい認識が深まって、社会的な支援の輪がより一層広がっていくことを期待しています。

平成23年7月

内閣府子ども若者・子育て施策総合推進室